

特定の課題に関する調査(国語) 結果のポイント

【調査概要】

① 漢字に関する調査

- 読み・書き(各50問, 計100問), 複数学年に10問ずつ共通の漢字を出題

② 長文記述に関する調査

- 意見文の記述 小学校 400~600字(50分), 中学校 600~800字(60分)
- 「記述の量」「発想や主題・認識」「構成」「記述」などの観点(6~7項目)から多角的に分析

→全国的に教育課程の実現状況を見るための, まとまった量の記述や多角的な分析は, 初めての試み

【調査結果の概要】

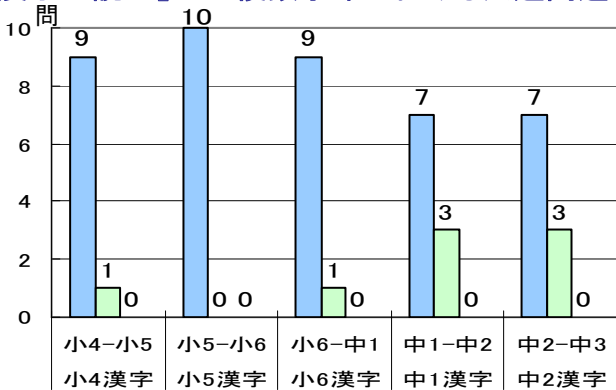
漢字に関する調査結果

- 共通問題を比較すると, 配当学年の次の学年での「書き」の正答率が高まっております, 2年間で定着を図る指導の成果がみられる。

※小学校学習指導要領では, 書きの指導については, 当該学年では漸次書くようにし, 次の学年までに, 文や文章の中で適切に使うことができるよう時間をかけて指導することとしている。

- 漢字の「読み」も学年進行に伴い定着している。

【漢字の読み】 一複数学年における共通問題の比較



※グラフの読み方(【漢字の読み】【漢字の書き】共通)

例えば, 9 は, 小学校5年で学習する漢字(小5漢字)を小学校6年と中学校1年に共通に出題したことを示している。

ここでは, それらの問題のうち,

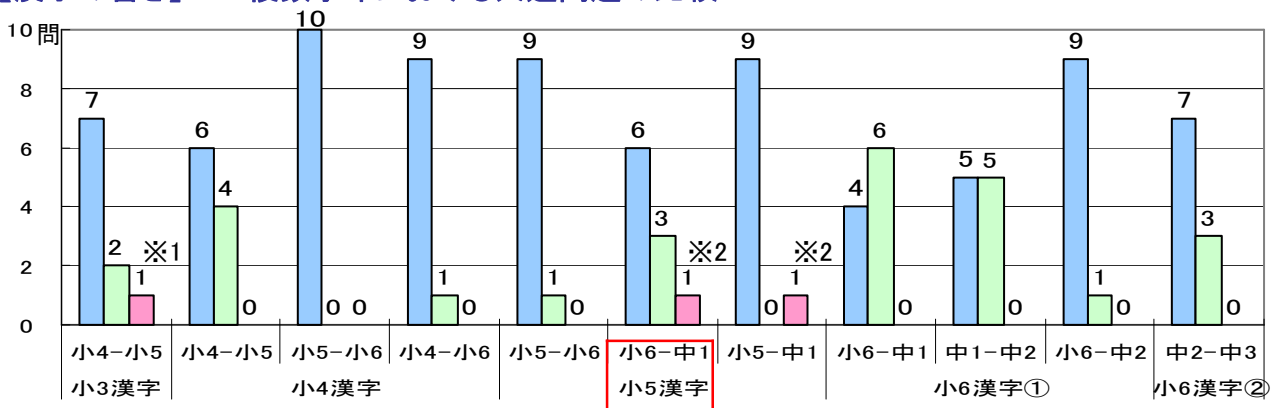
中1の正答率が小6の正答率を上回る問題 ■

中1と小6の正答率に差がない問題 ■

中1の正答率が小6の正答率よりも下回る問題 ■

として示したものである。

【漢字の書き】 一複数学年における共通問題の比較



正答率が下回る問題の漢字は以下のとおり。

※1: 陽「たいようがのぼる」

※2: 述「強くのべる」

- 日常生活や学習場面での使用頻度が高い漢字は定着している。一方、使用頻度が低いものや使用範囲が狭いものは定着が十分ではない。

■ 正答率の特に高い問題

【読み】－小学校－

「泣いている」 99.5%(4年)
 「りんご8個」 99.5%(5年)
 「閉じる」 99.5%(6年), 「円の半径」 98.4%(5年)

－中学校－

「閉じる」 99.8%(1年), 「降って」 99.6%(1年)
 「吹いて」 99.6%(1年)
 「福祉に関心」 98.8%(3年)

【書き】－小学校－

「せかいで一番」 95.9%(5年)
 「広いはたけ」 94.6%(5年)
 「あいする」 93.2%(6年)
 「水のりょう」 91.1%(6年), 「さんそ」 86.8%(6年)

－中学校－

「ギョウニュウを飲む」 92.0%(2年)
 「外国のエイガ」 90.6%(2年)
 「紙のマイスウ」 90.3%(1年)
 「日本国ケンポウ」 87.7%(3年)

■ 正答率の特に低い問題

【読み】－小学校－

「挙手して発言」 17.2%(4年)
 「改行しながら書き」 18.7%(4年), 23.3%(5年)

－中学校－

「趣のある庭」 31.8%(1年), 60.3%(2年)
 「感嘆の声」 40.0%(2年)
 「誇張して話す」 31.0%(3年)

【書き】－小学校－

「チームのしゅりよく」 17.5%(4年)
 「ふくびきのけいひん」 18.8%(4年)
 「ハワイをかんこうする」 26.8%(5年)

－中学校－

「輝かしいコウセキを残す」 17.6%(2年)
 「テンボウ台に登る」 21.9%(2年)
 フルって応募する」 24.1%(3年)

※問題が熟語の場合、熟語として2つの漢字とも正しく解答しているものが正答

- 字形や音・訓、意味の類似等による誤答がみられる。

● 字形の類似、偏・旁(つくり)による誤答

【読み】「挙手」を「けんしゅ」(小5), 「潤滑」を「じゅんこつ」(中3)
 【書き】「往復」を「住復」(小6), 「奮って」を「奪って」(中3), 「専門」を「専門」(中1)

● 音・訓の類似や読み間違いによる誤答

【読み】「子孫」を「こまご」(小4), 「改行」を「かいこう」(小5)
 【書き】「要点」を「用点」(小5), 「忠告」を「注告」(中3)

● 意味の類似による誤答

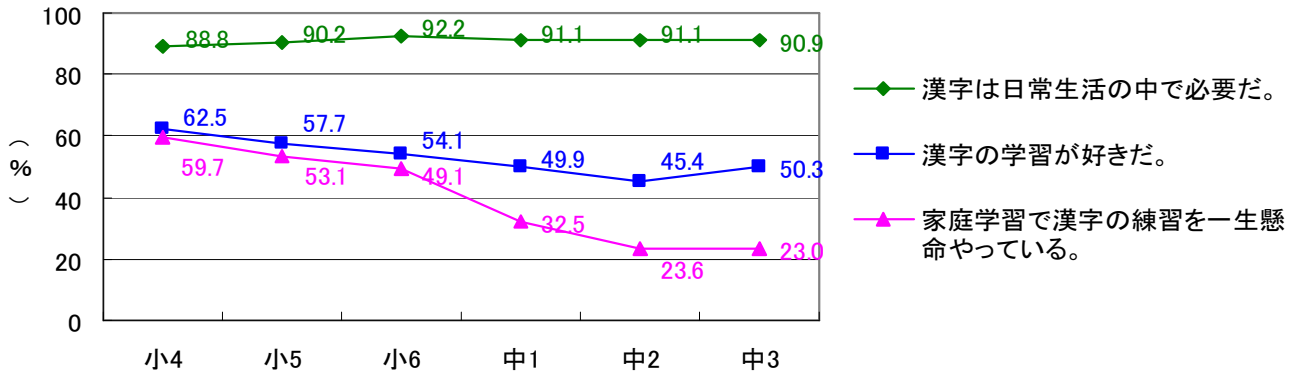
【読み】「縮尺」を「しゅくしょう」(小6), 「誓約」を「けいやく」(中3)
 【書き】「健全」を「健善」, 「賢全」(中3)

定着しにくい漢字やまちがいやすい漢字を、児童生徒の実態に合わせて重点的に指導していくことが必要。

○ 児童生徒の質問紙調査では、全学年を通じて、概ね「漢字は日常生活で必要だ」と感じているものの、あまり「漢字の学習が好きだ」と思っておらず、家庭での練習もなされていない状況。

【児童・生徒質問紙】

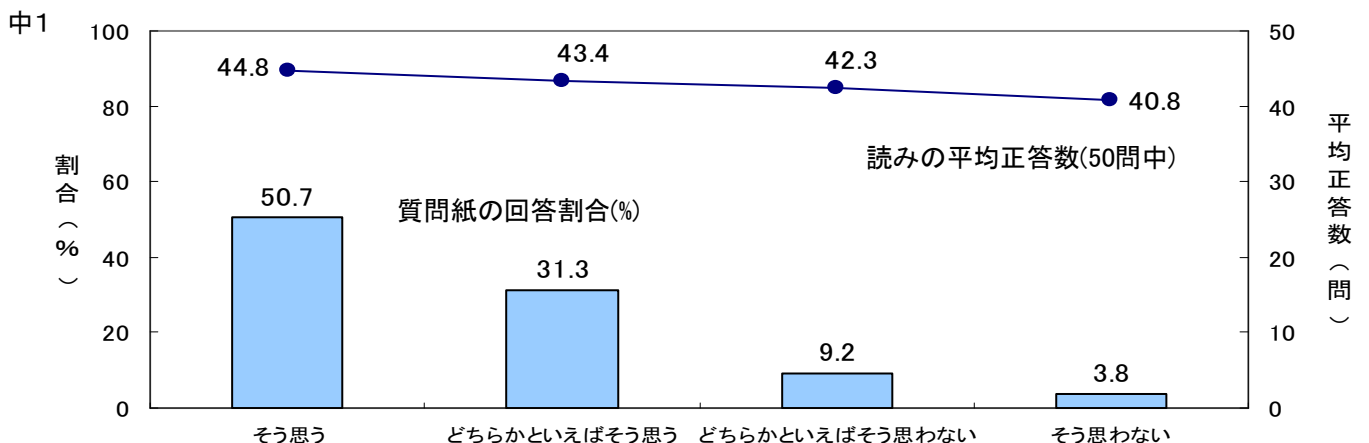
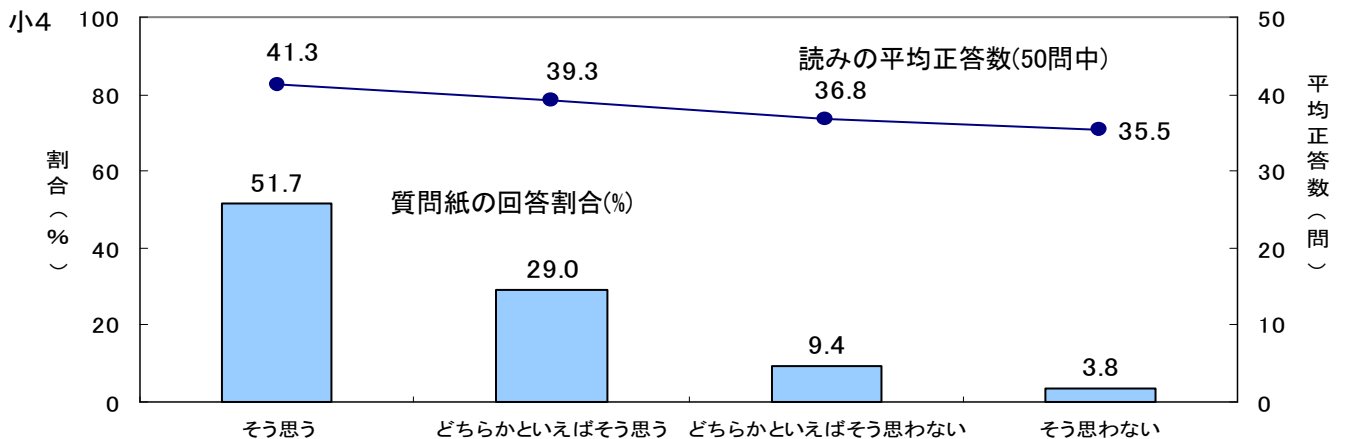
児童生徒の意識(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)



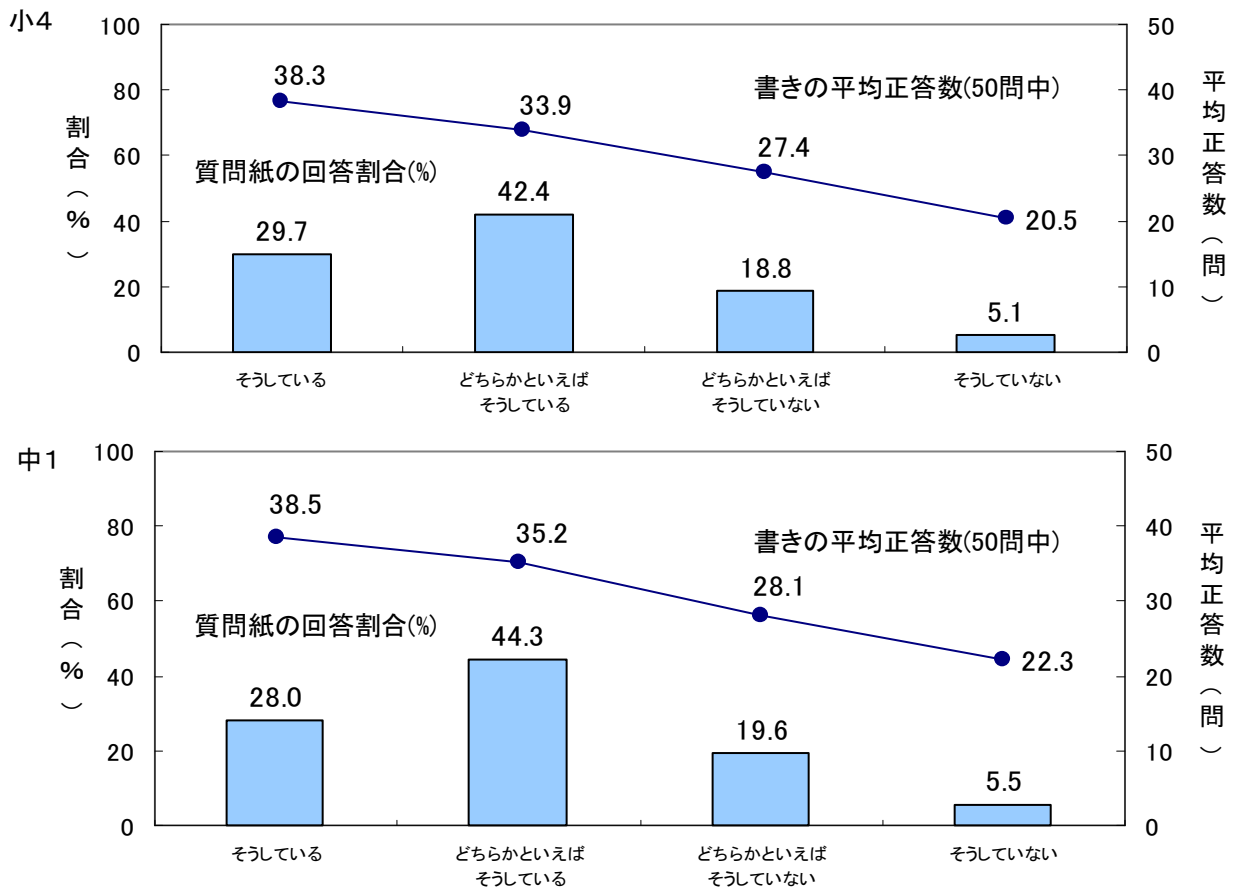
○ 「読書することで、漢字を読む力がつく」、「文章を書くとき、習った漢字を進んで使っている」と回答した児童生徒は、漢字の定着状況も高い傾向がある。

【児童生徒質問紙とペーパーテストとの関連】

「読書することで、漢字を読む力がつく」に回答した割合と読み(50問)の平均正答数



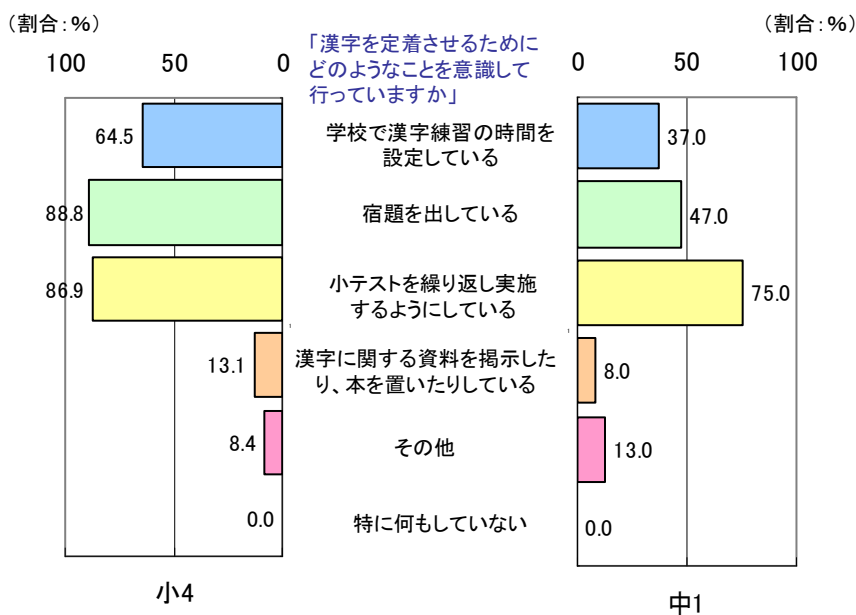
「文章を書くとき、習った漢字を進んで使っている」に回答した割合と書き(50問)の平均正答数



○ 漢字を定着させるために、小テストを繰り返し実施するほか、漢字の練習の時間を設定したり、宿題を出している教師の割合が高い。

【教師質問紙】

「漢字を定着させるためにどのようなことを意識して行っていますか」(複数回答)



長文記述に関する調査結果

本調査では、長文を記述する能力を総合的に把握するために、まとまった分量の文章を記述させ、1つの文章を「記述の量」「発想や主題・認識」「構成」「記述」などの観点(6~7項目)から分析。

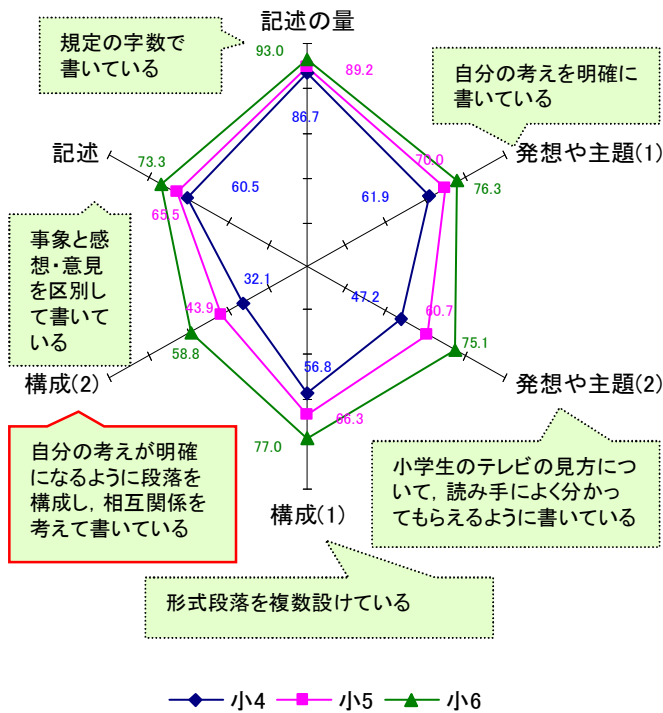
- 各観点到正答した小6・中3の児童生徒の割合は6~8割程度。学年進行に伴い、長文を記述する力を高める指導の成果がみられる。
- いずれの学年でも規定の量の文章を記述しているものが約9割。
- 形式段落は設けられるが、自分の考えが明確になるよう段落を構成したり、ひとまとまりの文章として一貫性を持たせることに課題が明らかになった。

—小学校—

<問題(記述のテーマ)>

「小学生のテレビの見方」についての意見文

<考察の観点ごとの正答率>

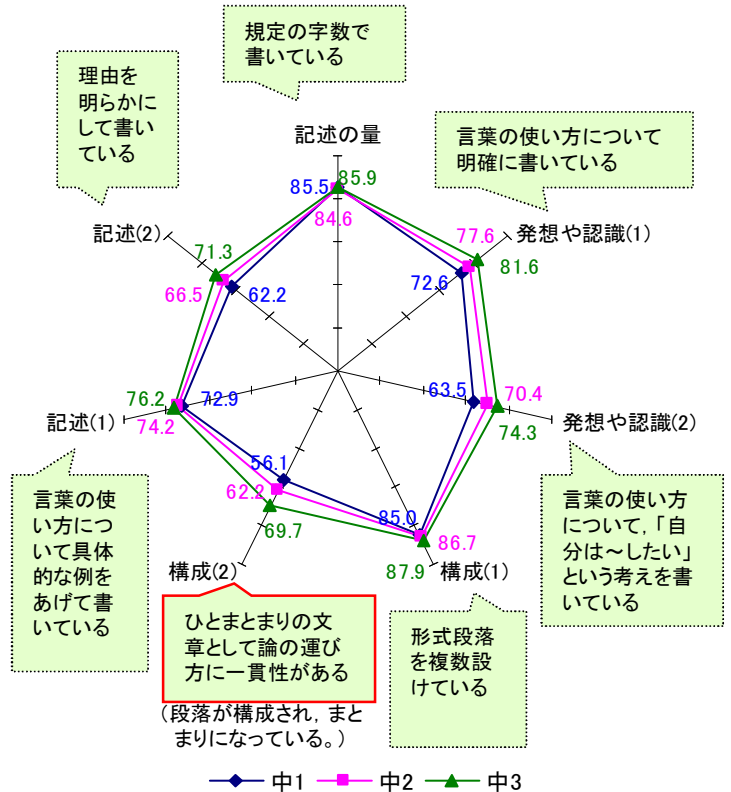


—中学校—

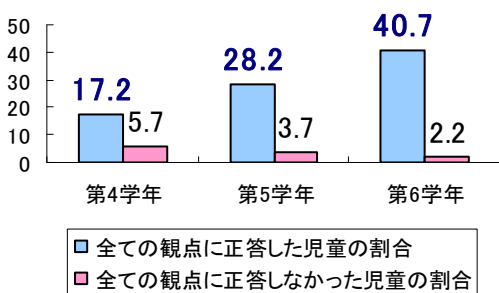
<問題(記述のテーマ)>

「言葉の使い方」についての意見文

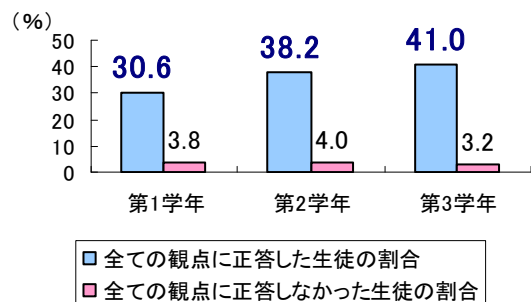
<考察の観点ごとの正答率>



(%) 全ての観点到正答した児童の割合 小学校



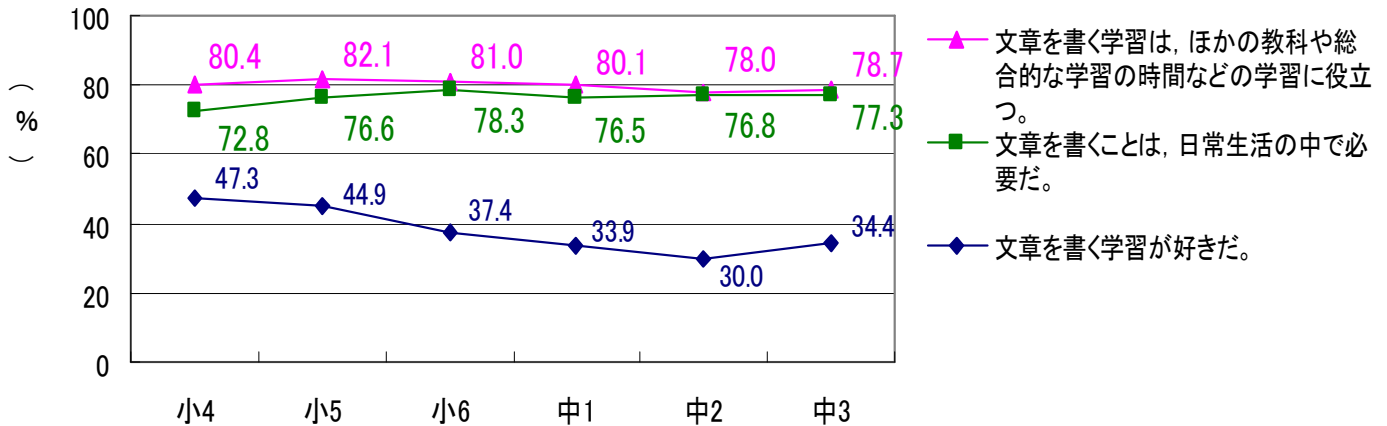
全ての観点到正答した生徒の割合 中学校



○ 文章を書くことはほかの教科等の学習や日常生活に役立つや必要だと考える割合が高いが、「書くことが好きだ」と回答した割合は学年進行に伴い低下する傾向がある。

【児童生徒質問紙】

児童生徒の意識
 (「そう思う+どちらかといえばそう思う」の割合)



○ 全ての観点で正答した児童生徒は、文章を書く学習に対して、「日常生活で必要だ」や「ほかの教科の学習などに役立つ」と回答した割合が高い傾向がある。

【児童生徒質問紙とペーパーテストとの関連】

